

んなで活そう

総参加の賜

んでしたが、しかし私の心配をよそに、大館市の国体に対する気運が急速にもりあがりを見せてきました。各種競技団体はもとより、小学校の子供から、家庭の主婦、協力団体、そして町中が国体一色になりました。私はしみじみと大館人の底力に敬服しないではいられませんでした。

気運は気運をよび、競技施設はもとより、宿泊、輸送、歓迎の体勢等、国体準備は急テンポにすすめられ、そして晴れの日を迎えました。つぎつぎに到着する選手を、温かく迎える主婦たち、そして永い月日、この日のために練習された前夜祭の見事さ、すばらしさ。会場、練習会場とつきつぎりの湯茶の接待等々と数えきれない。大会の運営もその円滑さが賞讃されていた。

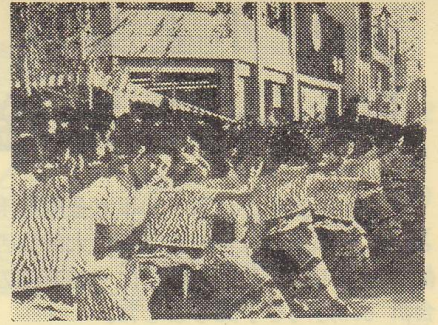
5日間の大会を滞りなく閉じて、会場一杯に「別れの曲」が流れ、市民の拍手に手をふつて別れを惜む選手たちの後姿を眺めたとき、私は不甲斐なくも涙を押しることができませんでした。

これまでになし得た市民性の強さ、立派さ、ありがとう、よくやつてくださったと、ただただ感謝の念でいっぱいでした。

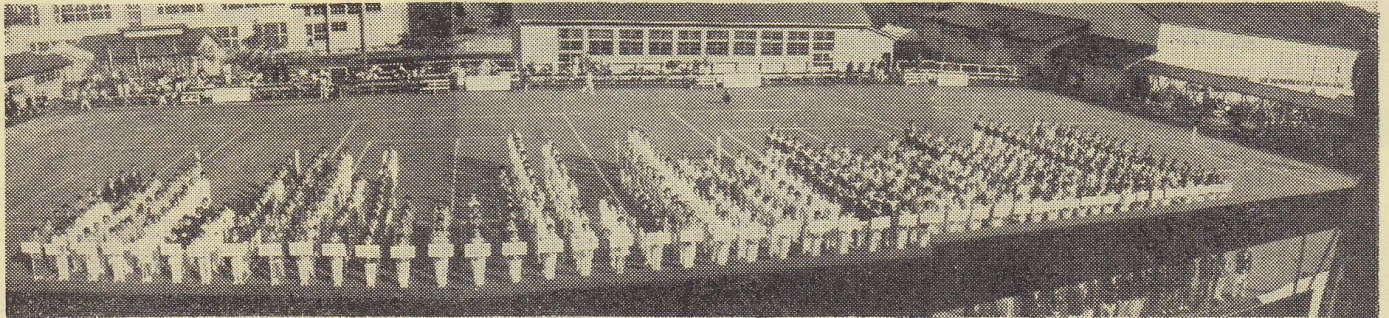
華やかな表面の陰にあつたもの、それは努力であり、協力心であります。私は大館市の将来のために、大くの犠牲を犠牲とも思わず、笑つて尽された市民性のよさを改めて確認した気持で大きな自信と責任を感じました。

大館市の市民性、それは何物にも屈せず、一致すれば何事をもなし得る力をもつてのことでもあります。どうか国体を契機として、いま一層大館市勢の進展にご協力くださるよう心からお願いする次第です。

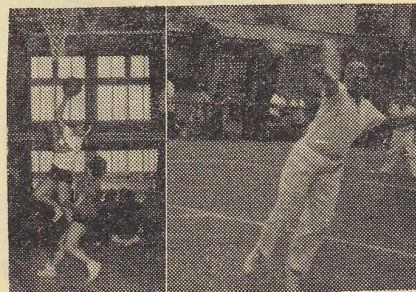
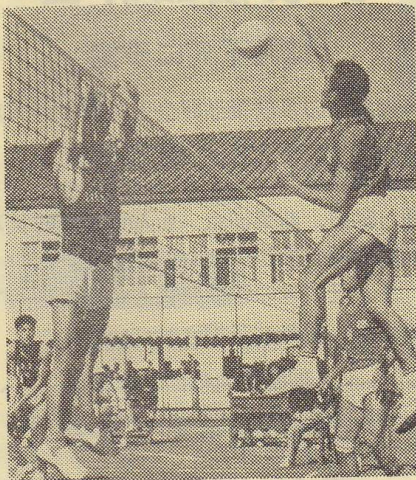
市長 佐藤敬治



選手歓迎のつどい。南は沖縄、北は北海道のはてまで、全国各地から初めて大館を訪れた選手や役員。この人たちの旅の疲れを癒し、旅情を慰め、最上のコンディションで競技に臨んでもらいたいものと、この日の民謡踊に参加した主婦たちは、ざつと500人以上。忙しい家事に暇をつくつて、長い間の練習が、こうも立派に実つたのだ。揃いのゆかたに、成功の希いをこめて、大町、鍛冶町いっばいに円陣をとつくりひろげたまは華麗であり、壮観であつた。国体の担い手、婦人会の活躍は、そのもりあがりとともに一層国体にとけこんでいった。



かくて10月9日、大館会場で行われるバレー、バスケット、テニスと、三種目の競技の幕が切つておとされた。郷土の名譽を担い、晴れて参加した選手およそ1,500人。開会式にははさすがに緊張と闘志をたたえていた。(写真は鳳鳴会場におけるテニス開始式)



こうして11日には天皇、皇后両陛下をお迎えし、翌12日には秩父宮妃殿下を会場へお迎え、参加選手たちの士気は一層鼓舞された。(上、秋田犬

をご覧になる両陛下、下 秩父宮妃殿下)

一般にはあまりなじめない種目との心配をよそに、会場は連日大入満員。観覧席からの拍手が絶えない。



こうして5日間に亘つた国体は大成功のうちその幕をとじた。来年は岡山で、別れを惜しむ選手たちのまなざしは、感激にかがやいていた。「ありがとう」「元気でね」まごころの第16回国体は市民の総参加で立派に成功したのだ。